

森林レンジャーがゆく

(99)

トウキョウサンショウウオの復活

市のイメージキャラクターの元になったトウキョウサンショウウオは、主に80年代からの環境の悪化や消失、外来種による影響などを受け、個体数が激減してしまった貴重な両生類です。今では少しずつ関心が集まり、トウキョウサンショウウオをはじめとする両生類や水生生物の保護のために活動する団体なども増え、徐々に生息環境の確保や個体数の復活に至っている場所もあります。しかし、外来種問題の他にも、盗卵などの密漁の影響が目立ち、対策の強化が求められてきたため、環境省は、絶滅危惧種に指定されているトウキョウサンショウウオを新たに特定第二種国内希少野生動物種に指定しました(令和2年2月)。これにより、販売や頒布を目的とした採取(生体・卵囊とも)は禁止され、違反すると罰則があります。

鳥獣保護法や魚類に対する規制は、一般的によく知られているため、適切な管理方法や重要性、環境被害意識、そして経済的影響が理解されており、この法令に該当する生き物は守られてきました。両生類や昆虫類などについても、自然界で重要な役割を果たすという点では同じですが、絶滅危惧種に指定された種類が増加する一方で、一般的にはスポットライトがあまり当たりませんでした。今回の指定で、更に意識が高まり、生息状況の改善が期待されます。

法律の規制に頼るしかない今の人間社会ですが、全ての生き物は必ず自然界でなんらかの役割を果たしています。自然界の本来のメカニズムなどをよく理解し、いつか人間の都合で生き物を見る考え方がなくなれば、様々な被害が減るはず(パブロ)。



市内に生息する
トウキョウサンショウウオ。
近年、個体数が増加傾向にある
場所があります。